

第4学年 国語科学習指導案

日 時：令和3年11月16日（火）第5校時

場 所：清水小学校 4年生教室

授業者：

1 単元名 「ごんぎつね」

2 単元・教材について

本作品は、6場面構成されており、1から5場面までは、主人公「ごん」の視点で書かれており、「ごん」の心情やその変化が捉えやすく、人物の気持ちの変化を想像しながら読む力を育てることに適した作品である。また、美しく五感で感じられる情景を表す語句にも着目して、人物の気持ちを想像することができる。主人公の「ごん」のひたむきな思いや行動に寄り添いながら、ちょっとしたいたずらが心が思わぬ影響を及ぼしてしまうこと、せめてもの償いという切ない思い、一方的な共感、無私のはずの償いの底にも認められたい思いがあること等々。どれも人間という存在の底にあるものであり、自分の心の中や人間理解にもつながる。最後の6場面は「兵十」の視点で書かれ、ごんの償いを知り、取り返しのでない結末の中にも互いの心が通い合う場面であり、「兵十」の心情も大きく変化することが想像できる。

児童は、「ごん」と「兵十」の関係やすれ違いが生み出す結末にそれぞれ違った感想や考えをもつと考えられる。その考えについて、叙述を根拠に話し合う活動を設定し、一人一人の感じ方に違いのあることに気づき、作品に対する理解を深めさせたい。

3 研究との関わり

(I) - 2 「話し合う前と後とでは、物語や人物に対する考えはどう変わったかな。」というきよみずガエル君を提示し、振り返りを書くことによって、物語や人物についての自分の考えをもつことができるようにする。

(II) - 2 深めの発問で「ごん」の気持ちをグループで話し合うことによって、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。

4 単元の目標

◎理由を明確にして自分の考えを伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。

○場面の移り変わりや登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像して読み取ることができる。

単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1才)	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像している。(C1エ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもっている。(C1オ) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C1カ)	学習の見通しをもって、読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとしている。

5 単元指導計画

時	単位時間の目標	評価規準	並行読書
1	1 「ごんぎつね」を読んで物語の設定を確認し、初発の感想を書くことができる。	単元目標を理解し、進んで「ごんぎつね」を読もうとしている。(学びに向かう力・人間性等)	木手ぶくろを買いに(偕成社) / だんでんむしのたなじま(新樹社) / び(小峰書店)
	2 初発の感想を交流し、学習の見通しをもつことができる。	感想交流から、物語の流れをつかむとともに、各場面の学習課題を設定している。(思考力・判断力・表現力等)	
2	3 「ひとりぼっち」「ちよといたずらがしたくなつた」等の言葉に着目することを通して、ごんの境遇や性格に気づき、いたずらをする気持ちを読み取ることができる。(1場面)	ごんの境遇や性格をつかみ、いたずらをする気持ちを叙述を基に読み取っている。(思考力・判断力・表現力等)	
	4 「ひがんな花がふみ折られ」「しおれていました」「うなぎが食べたいと思ながら死んだらう」「ちよつ、あんないたずらをしなけりゃよかった」等の言葉に着目することを通して、ごんが兵十の母親を死なせてしまったと考えていることに気づき、いたずら後悔する気持ちを読み取ることができる。(2場面)	兵十のおっかあが死んだと知り、いたずらをしたことを後悔するごんの気持ちを叙述を基に読み取っている。(思考力・判断力・表現力等)	
	5 「まず一ついいことをした」「これはしまった」「次の日も」等の言葉に着目することを通して、思い付きの償いからもっと償いたい気持ちになってきたことに気づき、ひとりぼっちになった兵十に償いを続けるごんの気持ちを読み取ることができる。(3場面)	ごんが兵十につぐないをする気持ちを叙述を基に読み取っている。(思考力・判断力・表現力等)	
	6 「井戸のそばにしゃがんで」「こいつはつまらないな」「ひきあわないなあ」等の言葉に着目することを通して、ごんが兵十に自分の行いを知ってほしいと思っていることに気づき、神様の仕業と言われて納得がいけないごんの気持ちを読み取ることができる。(4, 5場面)	兵十に自分の行いを気づいてほしいごんの気持ちを叙述を基に読み取っている。(思考力・判断力・表現力等)	
	7 本時 「ようし」「ごん、おまいだったのか」「ばたりと取り落としました」「ぐったりと目をつぶったまうなずきました」等の言葉に着目することを通して、最後にお互いの心が通い合ったことに気づき、兵十の驚きと後悔、兵十に自分のことを分かってもらったごんのうれしい気持ちを読み取ることができる。(6場面)	兵十の驚きと後悔、兵十に自分の償いを分かちもらったごんの気持ちを叙述を基に読み取っている。(思考力・判断力・表現力等)	
	8 物語全体を通じて、ごんと兵十の気持ちの変化について考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。	登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像したことをまとめている。(思考力・判断力・表現力等)	
3	9 詳しく読んで分かったことを基に、テーマを決めて物語や登場人物についてまとめることができる。	自分の考えの根拠となる部分を詳細に読んだり、必要に応じて引用したりして、自分なり考えをまとめている。(思考力・判断力・表現力等)	
	10 テーマ別に物語や登場人物についての考えを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。	根拠を明確にして話し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(思考力・判断力・表現力等)	
	11 物語を読む視点を決めて新見南吉の作品を読み比べ、自分なりの考えをまとめ、ブックトークのシナリオを書くことができる。	他の物語文においても、情景描写や場面の様子などを味わいながら読もうとしている。(思考力・判断力・表現力等)	
	12 学級でブックトークを行い、感想を交流することを通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。	複数の物語を読み比べて、作品の共通点について自分なりの考えをまとめて交流することを通して、友達との感じ方や考え方の違いに気付こうとしている。(学びに向かう力)	

6 本時のねらい (7/12)

「よし」「ごん、おまいだったのか」「ばたりと取り落としました」「ぐったりと目をつぶったままうなずきました」等の言葉に着目することを通して、最後にお互いの心が通い合ったことに気づき、兵十の驚きと後悔、兵十に自分のことを分かってもらったときのごん気持ちを読み取ることができる。(6場面)

7 本時の展開

単元のきよみずガエル君 どの言葉からどんな気持ちができるかな。話し合う前と後とは、物語や人物に対する考えはどう変わったかな。

第3ブロック(終末)

まごめ

兵十は、「ごん、おまいだったのか、いつもくりをくれたのは。」と言って、今まで「ごんがくりを持ってきてくれていたことを知りおどろき、「火縄じゆうをばたりと取り落とし」て打ってしまったことをこうかいていると思います。

「ごんは「目をつぶったままうなずいた」ので最後に兵十に分かってもらえてうれしいという気持ちがあり、幸せな気持ちがあると思います。

振り返り(きよみずガエル君)

今日は、悲しい中にも、互いの心が通い合う場面で、特に兵十は、「ごんを憎い存在から大切な友達だ」という気持ちに大きく変化したことが分かりました。

第2ブロック(展開)

深めの発問(グループ交流)

ごんはうれい気持ちだったのかな。

・打たれてしまったからうれい気持ちではないと思う。

・ずつと、兵十に自分のことを分かってほしいと思うたので最後に分かってもらえたのでうれいかったと思う。

・目をつぶったままうなずきましたと書いてあるから、最後に心が通じて友達になれた感じがする。悲しい結末だけどうれいかった。

課題

ごんをうってしまった兵十の気持ちと、兵十に打たれたごんの気持ちを読み取る。

深める(読み取る)(一人読み→全体交流)

(兵十)

あのごんぎつねめ…あのにくいきつねだ
「よし」…しとめてやる。
「ダウンとうちました。…やつつけてやる。
「おや」…くりがある。
「ごん、おまいだったのか。」
「いつもくりをくれたのは。」
「思いもよらなかった。驚いた。」
「何てことをしてしまいましたんだ
火縄じゆうをばたりと取り落としました
「ごん、すまない。お前だったのか。」
「青いけむりがまだつ口から細く出ていました。
「償いをすてくれたごんを打ってしまった。元に戻らない悲しみ

(ごん)

その明くる日も「ごんはくりを持って兵十のうちへ出かけて行った。しかし、兵十に見つかって打たれてしまった。」

「ごん、おまいだったのか」
「やつと分かってくれた
目をつぶったままうなずきました
「最後にわかってくれた。うれしい。

第1ブロック(導入)

前時までの学習の振り返り

「ごんは兵十に分かってもらえなくて「つまらない。」「ひきあわな」と思っていて本当は気付いてほしいと思っている。

つかむ

その明くる日も「ごんはくりを持って兵十のうちへ出かけて行った。しかし、兵十に見つかって打たれてしまった。」

- ・キーワードを全体で確認し、その言葉を入れ本時のまごめを書く。
- ・グループ交流や全体交流で話し合った友達の意見で、なるほどと思った意見を取り入れてまごめよう助言する。
- ・振り返りでは物語や人物に対する自分の考えを書く。

- ・ごんと兵十の気持ちができる「行動」「会話」「気持ちを表す言葉」「情景」等から見つけて線を引く。そこから気持ちを書く。
- ・見つけた言葉はできるだけ短く書く。
- ・ごんぎつねめ→ごん、おまいと呼称が変わっていることに着目させる。
- ・ごんと兵十の気持ちを分けて板書する。兵十の気持ちが憎しみから驚き、後悔へ変わる事、心が通い安心するごんの気持ちができるように板書する。
- ・深めの発問でグループ交流することにより、考えたことを伝え合う場を確保し、ごんの気持ちをより深く考えることができるようにする。

- ・前時を児童の振り返りを基に想起する。
- ・本時(6場面)はどんな場面かを初発の感想を基に作った学習計画表や挿絵から確認し、課題化へつなぐ。